

IFBLS 報告

UNFPA 国連人口基金 世界人口白書 2008

共通な理解を求めてー文化・ジェンダー・人権ー

2008 年 11 月 12 日 グリニッジ 正午

世界同時発表(日本時間 同日午後9時)



世界人口白書 2008
共通な理解を求めてー文化・ジェンダー・人権ー

概要

人々の生活の基本的な部分として、文化を開発政策と開発事業のプログラムに組み込んでいく必要がある。国連人口基金(UNFPA)発行の『世界人口白書2008』では、これがどのようにして実施できるかを示している。

今年は世界人権宣言の60周年にあたる。白書の出発点は、人権が普遍的な価値観を反映しているという点にある。その上で、開発事業の策定・実施にあたって、人権全般、なかでも女性の人権の推進に不可欠なものとして、文化に配慮したアプローチをとるよう呼びかけている。文化に配慮したアプローチは、文化に精通していることを求める。つまり文化がどのように作用するか、また文化にどう取り組むかについてよく知ることである。白書では『パートナーシップ、例えば、UNFPAと現地の非政府組織(NGO)が協力関係をとることで、女性のエンパワーメント(能力強化)とジェンダーの平等などの人権の推進に効果的な戦略を策定でき、女性性器切除などの人権侵害を終わらせることかきと示唆している。

文化は人々がどう生きるかについて影響を与える、と白書では言う。文化は人々がどのように考え、行動するかに影響を与えるが、誰もが同じように考えて行動するわけではない。文化は、外部状況に影響を及ぼしたり、そこから影響を受けたりして、呼応しながら変化する。人々は絶えず文化を作り替えている。ただ、文化のある側面は非常に長期にわたって人々の選択や生活形態に影響を与え続けている。

文化を一般化するのには危険であり、一つの文化の規範や価値観で判断するのは危険である、と白書は警告する。同じ文化の下にいるすべての人が同じ規範や価値観に同意しているわけではない。事実、変革は、人々が文化的圧力に抵抗する時に起きる。ジェンダーの平等に向けた運動は、この過程が現実起こっている良い例である。

文化的発展は経済や社会の発展と同じように人々の権利である。文化に配慮したアプローチは、文化の中にある独自の解決策を探しあてて活用する。文化に配慮したアプローチは、法的、政治的、経済的、社会的権力関係を含む現地の状況と、それが開発にとってどういう意味をもつかを理解するのに重要である。

文化的配慮や取り組みは、有害な伝統的慣習を受容することではなく、ましてや人権侵害の許可証を与えるものではない。それは白書の意図とはほど遠い。人権を侵害する価値観と慣習は、すべての文化の中に見られる。文化的現実を包括的に見ること、有害な文化的慣習に立ち向かい、良いものを強化する最も有効な方法は何かを明らかにすることができる。

人権

世界人権宣言(1948年)に加えて、国連加盟諸国は、広範囲にわたる人権文書、および国際人口開発会議の行動計画(1994年)と第4回世界女性会議の行動綱領(1995年)などの合意文書を採択した。人権が真に普遍的であるかどうかについてのこれまでの議論は、人権と諸文化との重要な相互関係について見過ごすことが多かった、と『世界人口白書2008』は述べている。

人権には、個人の権利と同様、集団的権利の保護も含まれる。集団的権利にはリプロダクティブ・ヘルスなどの健康に対する権利がある。どの文化にも共通して剥奪や抑圧への抵抗があり、人々は自分自身の抵抗を表現するのに権利の言語を使う。

しかし、個人も文化的集団も普遍的な人権をそれぞれに理解し、それぞれの文化的背景に合うように人権を擁護している。

白書が言う「文化的正当性」を通して人権を根づかせることはできるが、この正当性を獲得するには、文化的知識と文化的取り組みが必要である。文化に配慮したアプローチは、社会から取り残された集団を含め、すべてのコミュニティに働きかけることを求める。

この過程は早急にできることでも、予測できることでもないとの認識を白書は示している。人権が全面的に実現された状態での人間開発の成否は、敬意をもって文化と真剣に取り組むか否かにかかっている。

女性のエンパワーメントとジェンダーの平等

最も近いものでミレニアム開発目標(MDGS)を含めた国際協定にかかわらず、ジェンダーの不平等は多くの文化圏で広くかつ根深く残っている、と白書は指摘している。女性と女子は10億人を超える世界の貧困層の5分の3、読み書きのできない9億6,000万人の成人の3分の2を占め、女子は学校に行っていない子ども1億3,000万人の70%を占める。文化的規範や伝統の中にはジェンダーに基づく暴力を恒久化させているものがあり、女性も男性も見て見ぬふりをすることを学習することがある。

文化の中で権力が強制的に行使されている、と白書は言う。その強制は目に見える形であるか、政府や法律の仕組みの中に隠されているか、あるいは人々の意識の中に深く根を張っているのかもしれない。したがって、権力関係はジェンダー関係を形成し、児童婚(産科的フィスチラと妊産婦死亡の主因の一つ)や女性性器切除などの慣習の底流をなす。禁止する法律があるにもかかわらずこれらの有害な慣習は多くの国で続いている。女性が、これらの慣習は自分の子供や自分自身を守る一つの形であると信じている場合もある。文化との軋然なしにジェンダーの平等が進んだことはいまだかつてない。例えばラテンアメリカの女性は、ジェンダーに基づく暴力を顕在化させ、それを禁止する法律を制定することに成功したもの、法律の施行にはいまだに問題がある。

白書では、UNFPAがとるアプローチは、人権とジェンダーの平等に向けた活動を文化的配慮と統合させることであると説明している。この方法は、国民の主権と文化的統合を尊重した上で、内側からの変革を奨励する。

UNFPAは政府と協力するだけでなく、様々な国内の組織・個人とも協働する。UNFPAはその多くを「変革の担い手」と見なしている。「文化のレンズ」は、この方法を実行に移す手段である。文化のレンズは文化的受容と主体者意識について交渉し、説得し、それを育成するのに必要な文化理解を育てる。さらにUNFPAが支援するプログラムが、ニーズ、経験、文化の違いに呼応し、人々が自分たちの置かれた状況とどのように対話するかを理解し、地元の抵抗から学ぶのを手助けする。

リプロダクティブとヘルスとリプロダクティブ・ライツ

リプロダクティブとヘルスとリプロダクティブ・ライツについて文化や国民が理解する内容は多様であり、コミュニティの中でさえ異なることに白書では注目している。文化に配慮するということは、これら多様な意味づけを認識し理解することであり、予測できない現実に対して心構えができていくということである。例えば男性によっては、一見利己的にみえても、ジェンダーの平等を求めて活動するかもしれない、女性によっては自分にとって明らかに有害な慣習を支持するかもしれない。文化に配慮したアプローチは、現地のコミュニティの考えを理解した上で活動することを求める。例えば、女性ないしカップルが子どもを産まないとき、それは何を意味するか、女性の受胎能力に対する避妊の影響はあるのか、「男らしさ」を構成するのは何かについての男性の意見などを理解することが、効果的な協力には必須である。